

## 第69回卒業式



春らしい、暖かい日差しの中を元気な笑顔で卒業生が登校してきました。



「卒業生入場」の合図とともに「威風堂々」の曲が流れる中、舞台から一人一人胸を張って入場しました。

続いて卒業証書授与では、一人一人「部活でがんばります」「学習と運動を両立



します」など、中学校での抱負や将来の夢を言ってから卒業証書を堂々と受け取りました。受け取った卒業証書をお母さんやお父さんに感謝の言葉を添えながら渡しました。



『お祝いの言葉、お別れの言葉』では、卒業生が入学式からの小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、合唱を交えながら伝えました。

それに対して、在校生が、お祝いの言葉や合唱で応えました。どちらも、気持ちのこもった言葉や合唱で、感動が広がりました。『卒業生退場』では、在校生が「じゃあね」の曲を合唱する中、6年間の思いを胸に花道を歩いていきました。



式が終了してから最後の学級活動を行い、慣れ親しんだ教室に別れを告げました。門出は、春の明るい光を浴びながら、在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら巣立っていきました。その表情には、「中学校でがんばるぞ！」という決意が表れていました。

## 式 辞

うららかな春の日差しを浴びて、桜のつぼみも日ごとに膨らんでまいりました。この晴れやかな日に、十四山東部小学校 第六九回卒業生として、巣立っていく三五名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いをいたします。



ご参列のご家族の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の誕生から今日まで、健康、生活習慣、学習などなど、細かい配慮をされながら、本日を迎えられました。それらの一つ一つを振り返るにつけて、感慨ひとしおのものがおありのことと存じます。重ねてお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

さて、卒業生のみなさん、小学校生活をふり返って何を思い出すでしょう。難しい問題に悩みながら学習した教科。協力して練習に取り組み、やりとげた運動会や学芸会などの行事。「えがお いっぱい」「くふう いっぱい」「ちから いっぱい」の合い言葉で小学校生活六年間がんばりました。そこにいつもあったのが、『全力』の二文字でした。特にこの一年間は、学習にも行事にも『全力』で取り組み、十四山東部小学校を引っ張っていつてくれました。そのおかげで、本当にすばらしい学校になりました。これからも、それぞれの夢に向けて、いつも『全力』を大切に進んでいつてください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。

それは、『強みを知り、強みを伸ばす』というものです。これは、昨年ラグビーワールドカップで大活躍した「桜ジャパン」のコーチ、エディー・ジョーンズさんの言葉です。日本のラグビーは、体が大きな外国チームに全く歯が立ちませんでした。そんな日本のコーチになったエディーさんがチームを指導する際、選手に伝えた言葉です。そして「日本の強み」である「まじめで忍耐力があること」を見いだし、その「強みを伸ばす」ハードでかつ頭脳的な練習を指導しました。その結果、優勝候補の国にも勝つというすばらしいチームに作り替えることができたということです。みなさんにも同じように「まじめで忍耐力がある」という日本人の強みが備わっています。また、それ以外にも、自分独自の強みも持っています。これから、それを見つけ、伸ばしていく中学校生活にしてください。きっと自分でも驚く力となるはずです。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気を持って一歩ずつ前へ進んでいつてくれることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。